

アレルギー疾患医療連携体制 ネットワーク会議について

令和6年10月22日（火）
千葉県健康福祉部疾病対策課

アレルギー疾患医療連携体制ネットワーク会議

【目的】

県内のアレルギー疾患
医療連携体制ネットワークの構築

【アレルギー疾患地域基幹病院】

県内20か所

| | 医療機関名 | 選定日 | 医療圏 |
|----|-------------------------|---------|----------|
| 1 | 千葉県こども病院 | 令和元年11月 | 千葉 |
| 2 | 千葉市立海浜病院 | 令和元年11月 | |
| 3 | 医療法人社団誠馨会 千葉中央メディカルセンター | 令和元年11月 | |
| 4 | 東京ベイ・浦安市川医療センター | 令和元年11月 | 東葛南部 |
| 5 | 国際医療福祉大学市川病院 | 令和元年11月 | |
| 6 | 順天堂大学医学部附属浦安病院 | 令和元年11月 | |
| 7 | 松戸市立総合医療センター | 令和元年11月 | 東葛北部 |
| 8 | 医療法人社団愛友会 千葉愛友会記念病院 | 令和元年11月 | |
| 9 | 医療法人社団協友会 柏厚生総合病院 | 令和元年11月 | |
| 10 | 医療法人社団圭春会 小張総合病院 | 令和元年11月 | |
| 11 | 独立行政法人国立病院機構 下志津病院 | 令和元年11月 | 印旛 |
| 12 | 成田赤十字病院 | 令和元年11月 | |
| 13 | 東邦大学医療センター佐倉病院 | 令和元年11月 | |
| 14 | 国際医療福祉大学成田病院 | 令和3年2月 | |
| 15 | 総合病院国保旭中央病院 | 令和元年11月 | 香取・海匝 |
| 16 | 東千葉メディカルセンター | 令和元年11月 | 山武・長生・夷隅 |
| 17 | 医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 | 令和元年11月 | 安房 |
| 18 | 国保直営総合病院君津中央病院 | 令和元年11月 | 君津 |
| 19 | 独立行政法人労働者健康安全機構 千葉労災病院 | 令和元年11月 | 市原 |
| 20 | 千葉県循環器病センター | 令和元年11月 | |

令和6年度アレルギー疾患医療連携体制ネットワーク会議について

| | 主な意見・課題等 | 参考：「令和3年度 アレルギー疾患地域基幹病院 アンケート調査概要」 | 千葉県アレルギー疾患対策推進計画 基本的施策 | 千葉県アレルギー疾患対策推進計画 施策内容 | |
|---|---|--|--|--|--|
| 1 | 現場では食物アレルギーの知識を持っている栄養士さんを地域で繋ぐことが難しい | | > <u>専門的な知識の及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成</u> (第2節) > <u>アレルギー疾患に関する相談等に携わる職種の育成</u> (第3節) | > アレルギー疾患医療に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、その他医療従事者の知識や技能の向上に資する研修を、拠点病院と連携して推進。 > 日頃アレルギー疾患を有する者への対応が求められることが多い保健師、助産師、管理栄養士、栄養士、調理師等がアレルギー疾患への対応に関する適切な知見を得られるよう、拠点病院と連携して研修会の開催や助言等を行う。 > 国が開催する研修会や、アレルギー関連団体が主催する講習会等への参加による自己研鑽を促すため、各関係機関を通じて広く参加の呼びかけを行う。 | |
| 2 | 負荷試験をやった子どもたちが地域で栄養指導を受けることが難しい | | | | |
| 3 | PAE やCAI の有資格者がいると臨床がレベルアップする為、育成、スキルアップが重要 | 【医師以外の医療従事者の患者教育の必要性】 内科、小児科、皮膚科において必要である、どちらかといえは必要との回答が多かった。 | | | |
| 4 | 周りに専門医がいないため、紹介で基幹病院に来た患者さんを地域の医療機関に戻すことが難しい | 【マンパワー】 専門医が少ないことや患者指導のできるスタッフも少ない 【情報共有】 必ずしも十分でない。 【システム】 多様なアレルギー疾患を持つ一人の患者を、 <u>診療科横断的に診られるようなシステム作り</u> が大切 | > 医療機関の整備等 (第2節) > <u>専門的な知識の及び技能を有する医師その他の医療従事者の育成</u> (第3節) ・アレルギー疾患に係る調査・分析 (第4節) | > 定期的に専門医による病態の評価が必要な患者や、診療所や一般病院での標準的な治療では病態が安定化しない重症及び難治性の患者等に対する、かかりつけ医、地域基幹病院、拠点病院の間での医療連携体制の構築を拠点病院と連携して推進。 > アレルギー疾患医療に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、その他医療従事者の知識や技能の向上に資する研修を、拠点病院と連携して推進。 | |
| 5 | 移行期に関しては、小児科の専門医と成人科の専門医の両方がいないと上手く移行出来ないところが問題 | | | | |
| 6 | 小児科の先生がかなり抱えている現状があるのだろうということが想定される | | | | |